

国立大学法人九州工業大学経営協議会議事要旨（令和元年度第1回）

1. 日 時 令和元年6月19日（水）13:00～15:15
2. 場 所 戸畑キャンパス 百周年中村記念館 特別会議室
3. 出席者 池上委員，小笠原委員，北橋委員，工藤委員，坂井委員，高原委員
（五十音順）
学長，理事（教育・財務担当），理事（研究・産学連携担当），
理事(国際・評価担当)，理事（総務・労務担当），
工学研究院長，情報工学研究院長，生命体工学研究科長
4. 列席者 近藤監事，林田監事，副学長（情報担当），
副学長（男女共同参画・社会連携担当），
教養教育院長

5. 新年度の挨拶 （資料1）

学長から，会議に先立ち新年度の挨拶として，昨年度に実施した主な取組と今年度の抱負について，説明があった。

6. 会議成立

構成員18名に対し，14名の出席により定足数を満たしていることが確認された。

7. 議事録の確認

平成30年度第4回経営協議会（平成31年3月15日）の議事要旨の確認について説明があり，了承された。

8. 審議事項

（1）平成30年度決算について （資料3）

理事（教育・財務担当）から，平成30年度決算について説明があり，審議の結果，原案のとおり了承され，役員会に付議することとされた。

（2）令和2年度予算にかかる概算要求について （資料4）

理事（教育・財務担当）から，令和2年度予算の概算要求案について説明があり，審議の結果，原案のとおり了承された。

なお，文科省への提出に当たり，文言の見直し等，若干の修正がある場合には学長に一任することが了承された。

（3）平成30事業年度に係る業務の実績に関する報告書（案）について

（資料5-1～2）

理事（国際・評価担当）から，平成30事業年度に係る業務の実績に関する報告書（案）について説明があり，審議の結果，原案のとおり了承された。

なお，文科省への提出に当たり，文言の見直し等，若干の修正がある場合には学長

に一任することが了承された。

また、次のような質疑応答があった。

(○：学外委員，△：学内委員)

- ： 資料5-1のように、実績として強調すべきことは強調した方がよい。KPI を前倒しで上回っている成果については、それがわかるような記載にしてはいかがか。
- ： 総合的に良くやっている印象である。特に、グローバル人材育成に関して、留学の体験発表を聞くと、良い経験をしていることが伝わってくるため、ぜひ推進していただきたい。
- △： 引き続き、強く推進していきたい。
- ： 男女共同参画に関し、本学の女性教育職員の割合や役員及び管理職における女性の割合については、現状はどうか。また、他大学に比べてどうか。
- △： 5月1日時点で、本学の女性教育職員の割合は、8.8%、役員及び管理職における女性の割合は、13.5%であり、本学の女性教育職員の割合については、KPI を上回っている。役員及び管理職における女性を増やすことを引き続き推進する。また、他大学に比べて、女性教育職員の割合は下位の方であるが、さらに増えるように取り組みたい。
- ： 特筆すべき実績は、主張していった方が良いと思う。
- ： BYOD を導入した意図について、また、サンクスカードの内容について説明いただきたい。
- △： BYOD を導入した意図は、ICT を活用した教育の高度化・効率化・双方向化、ICT 利活用能力自体の向上などであり、学生時代にPC を使うスキルを学ぶためである。PC は、学生個人の持ち物であり、セキュリティについては、ウィルスをチェックするソフトを大学が用意し、各PC にインストールさせている。
サンクスカードは、感謝の気持ちをカタチで見える化し、直接相手に届けることで、職員同士が互いを認め合う文化の醸成を目指している。これにより、感謝の気持ちが職場に流通し、気持ちよく働ける職場環境を築くことができると考えている。方法については、職員の意向により、あえて紙媒体で行っている。
- ： 留学生の受入状況や卒業後の進路はどうか。また、留学生の受入にあたり、課題はあるか。
- △： 卒業後の進路については、母国に戻る留学生が多いが、一部は日本に留まって、日本企業に就職している。受入については、特定な予算があった場合などには、その定員内で受入を行っている。課題としては、留学生用の寮が不足しており、留学生寮・住居の確保について、引き続きご支援を賜われればと思う。

9. 報告事項

(1) 平成30年度卒業(修了)者の就職状況及び就職先について (資料6)

理事(教育・財務担当)から、平成30年度卒業(修了)者の就職状況及び就職先について報告があった。

なお、次のような質疑応答があった。

(○：学外委員，△：学内委員)

○： 就職先に関東圏が多いが、転出超過となっているか。

△： 入学者のうち九州全体は約80%であり、関東圏に50%ほど就職しているため、転出超過である。九州への就職は25%程度であり、九州における求人が増えれば、地元で就職する学生も増えるのではないか。

○： 就職先における東証1部上場企業の割合はどうか。

△： 約47%は、東証1部上場企業である。情報工学部の学生も、製造業などの東証1部上場企業に多数就職をしている。

(2) 経営協議会学外委員の意見を活用した法人運営の主な改善事例について (資料7)

学長から、経営協議会学外委員の意見を活用した法人運営の主な改善事例について報告があった。

10. その他

(1) 活動紹介 (机上配付)

特色ある教育研究に取り組む以下の教育職員から、自身の活動について説明があった。

①工学研究院 物質工学研究系 城崎 由紀 准教授

「有機―無機複合体を用いた新規生体材料の創製と生体組織再生因子の解明」

②情報工学研究院 知能情報工学研究系 嶋田 和孝 教授

「言葉を理解するコンピュータを創る～言葉の処理とその先へ～」

(2) 110周年記念フォーラム等について (机上配付)

学長から、8月23日(金)に東京の大手町サンケイプラザにて開催予定の110周年記念フォーラムについての報告があった。併せて、旧体育館を産学協創による研究活動を促進するための先進的な研究施設ヘリノバージョンする目的により創立110周年記念募金の活動をしている旨の報告があった。

(3) 令和元年度経営協議会の開催日程について (資料8)

総務課長から、令和元年度の経営協議会の開催日程についての説明があった。